

## 実践報告

### 山梨県におけるオンラインガイダンスの試み

原田かおり(山梨県立大学)・斉藤祐美(山梨県外国人権ネットワーク・オアシス)  
小林信子(ユニタス日本語学校)・萩原孝恵(山梨県立大学)

#### 1 実践の場の特徴

コロナ感染が拡大してきた2020年3月、安倍晋三首相(当時)の突然の要請により全国一斉休校が始まり、多くの学校では学校行事の中止や延期を余儀なくされた。2015年から毎年、山梨県で「多言語による高校進学ガイダンス」(以下ガイダンス)を開催してきた私たちも、コロナ禍での開催の是非を判断しなければならなかった。そこで、他地域の開催状況を調べたところ、2020年5月時点で「オンライン」による開催は見当たらなかった。しかし、コロナ禍を理由に中止することはできないと考え、オンラインでの開催を決めた。

#### 2 実践の目的

不要不急の外出を禁止され移動の自由がなくなった中で、対面ではなくオンラインという方法でガイダンスを開催することの有効性・可能性を探ることを目的とした。

#### 3 オンラインガイダンス開催のための準備

オンラインでガイダンスを開催するためには、対面とは違う準備が必要だった。オンライン開催と対面開催における準備の違いを比較したものが下の表である。

	オンライン開催	対面開催
チラシ	デジタル資料(5言語) 申込用紙アクセス用QRコード入り	紙資料(5言語)
申込方法	Googleフォームによる事前申込制(5言語)	申込不要
資料配布	申込者に郵送	会場で配布
シミュレーション	1回目:スタッフのみがZoomで参加し、ガイダンスの流れを確認 2回目:当日使用する施設で、講師・通訳者・協力者・スタッフが流れやZoom操作を確認	会場の下見のみ
Zoom招待メール	あり(5言語)	なし
注意事項	自動再生のパワーポイント(5言語)	口頭(通訳付)
説明会用 パワーポイント	音声入り(日のみと、日+ポ・中・ス・英) 自動再生の設定	音声なしで、講師が 口頭で説明(通訳付)

アンケート	Google フォーム (5 言語)	紙資料で配布し回収
-------	--------------------	-----------

\* 言語は、ポルトガル語(ポ)・中国語(中)・スペイン語(ス)・英語(英)・日本語(日)。

#### 4 ガイダンス開催当日(13:00~15:30)

ガイダンスの流れは次の通りである。12:30 から受付、13:00 から言語別説明会、14:30 から交流会・個別相談会(希望者)。大枠は対面開催と同じだが、ロールモデルの話を書くなどの企画は実施しなかった。高校進学に関する情報を多言語で提供することが、今回の開催の最重要事項と考えたためである。当日起きたトラブルは次のようなものだった。

- ・受付開始時からアクセスしていたが、最後まで Zoom に入れない申込者がいた。
- ・パワーポイントを自動再生にしたため、トラブルが起きた時に対処できなかった。
- ・説明会のパワーポイントの音声に参加者に聞こえなかった。
- ・ブレイクアウトルームに入れないスタッフがいた。
- ・ブレイクアウトルームに入ると、メインルームへの Zoom 上でのやりとりがうまくできなかったり、他のブレイクルームの様子がわからず全体の進行状況の把握が困難だったりした。そのため、ホストがいる実際の部屋まで移動しなければならなかった。

#### 5 開催した結果と課題

対面開催した 2015 年から 2019 年までの参加者数は平均 28.5 名で、オンライン開催した 2020 年の参加者数は 13 名(参加率 65%)であった。参加者数でいえば半分以下になったといえるが、「来年もガイダンスはあるか、あるなら参加したい」との声があった。

今後のオンラインガイダンス開催の課題として次のようなことがあげられる。

- ・参加者のネット環境の整備
- ・参加者のデバイス使用の慣れ
- ・市町村の教育委員会の協力
- ・自治体や学校関係者との連携
- ・学校施設の利用
- ・ガイダンス継続のための予算

開催後のアンケートでは、オンライン参加に対する肯定的な意見も聞かれた。オンラインで参加したい理由として「移動しなくていいから」「忙しいから」という回答があった。オンライン開催は、会場が遠方であっても容易に参加できるという利点があり、散在地域ならではの問題解決につながる可能性がある。一方、ネット環境が整備されていない、デバイス使用に慣れていない、などからオンラインガイダンスへの参加を躊躇する人がいる可能性も否定できない。各地域に会場を設け、オンライン会議システムの操作をできる人がサポートすることにより、オンラインガイダンスへ参加しやすくすることが重要であると考えられる。さらに、ガイダンスへの参加方法として、対面かオンラインかを参加者が選択できるようにすることが大切である。

付記 山梨県立大学地域研究交流センター事業の一環として助成を受けている。